



神谷学市長 からの メッセージ

様々な意味で、世界中から注目された東京五輪が閉会しました。この大会では、北京大会以来13年ぶりにソフトボール競技が採用され、日本チームは選手の奮闘により再び金メダルを獲得することができました。

この日本チームには、本市ゆかりのデンソーブライトペガサスの川畑瞳選手と山田恵里選手が選ばれており、要所で勝利に貢献されました。お二人へは、市からその栄誉を称えるべく市民栄誉賞を贈呈しました。

また市内で事前合宿されたカナダチームは、リーグ戦での日本チームとの対戦では大接戦の末、0対1で残念ながら敗れたものの、カナダとしては初の銅メダルを持ち帰ることができました。

川畑・山田両選手の活躍と、本市を合宿地とされたカナダチームのこうした健闘により、「ソフトボールの聖地」の面目が保てたことを嬉しく思います。

ところで、こうした五輪関連の朗報の一方、首都圏をはじめ全国各地で新型コロナウイルス感染症の拡大が顕著となりました。この地域でも若年層

祭りをめぐる風景

での感染増加が続いており、「楽しみ尽きて哀しみ来る」の世相を残念に思います。

真夏のイベントについては、本市では新型コロナウイルス感染防止のため、今年も「安城七夕まつり」を中止としました。春に中止を決断する際には、開催を切望する声に心が揺れました。しかし、今夏の七夕まつり開催は、熱中症の多発も併せた医療ひっ迫を招くと判断し、やむなく2年連続の中止と決定いたしました。

ワクチン接種は若年層への浸透が不十分ですが、本市は引き続き医師会のご理解をいただき、対象とする市民の皆さんへのワクチン接種を最重要課題としてまいります。コロナ禍の終息は、皆さんの理性的な日常生活とワクチン接種とが要となります。

大切な方々に安心して会える平穏な日常を一日も早く取り戻したいという願いがかないますよう、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



日本チームの勝利に貢献した
川畑・山田両選手
(本市の壮行会(4月29日)にて)



「食品ロス」を減らそう!!

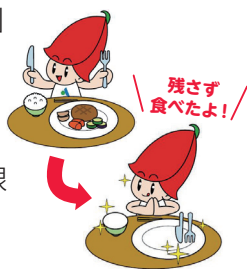
～10月は「食品ロス削減月間」です!～

図▶清掃事業所(☎76)3053)

食品ロスとは、まだ食べることができるのに捨てられてしまった食品(食べ残しや賞味期限切れ等で廃棄された食品)のことです。食品ロスを減らすために、食べ物を残さない、余らせない、無駄にしない。まずはできることから取り組んでみませんか。

■家庭でできる!食品ロス削減のポイント

- 買い物前に戸棚・冷蔵庫内の食品の在庫をチェック
- 食材を「買い過ぎない」「使い切る」「食べ切る」
- 残った食材や料理は別の料理にアレンジ
- 外食では食べきれない量を注文
- 「賞味期限」と「消費期限」を正しく理解
賞味期限→おいしく食べることができる期限(期限後でも食べられる)
消費期限→期限後は食べない方がよい期限



国内では、年間約2531万トンの食品等が廃棄されています。そのうち、食品ロスの量は約600万トン(家庭約276万トン、企業約324万トン)。毎日国民1人あたりお茶碗約1杯分(約130g)が捨てられていることになります。

